



吉田公民館だより



発行 登米市吉田公民館
(指定管理者 吉田コミュニティ運営協議会)

TEL: 0220-55-2124
FAX: 0220-55-4528

吉田コミュニティ運営協議会



交通死亡事故ゼロ 3000日達成！！（1月19日）



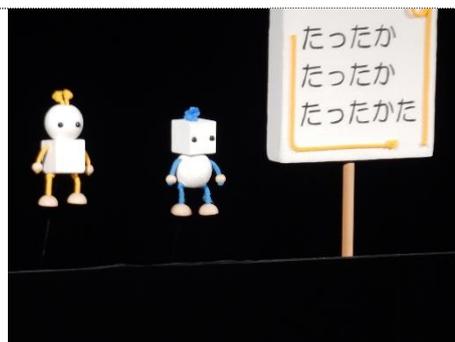
吉田地区での交通死亡事故ゼロの日数が令和4年1月14日で3000日を達成し、当コミュニティ運営協議会の伊藤副会長が表彰式に出席しました。この功績は皆さんの交通安全運動に対する日頃の努力の結果です。日頃から吉田地区の安全にご協力いただきありがとうございます。

令和4年春の交通安全市民総ぐるみ運動が4月6日から4月15日までの10日間行われます。今後も交通安全に十分気を付けて安心安全な吉田地区にしていきたいと思います。

賞状は吉田公民館の玄関に飾ってありますので、公民館に来た際にご覧ください。

行事報告

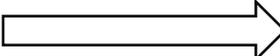
ひまわり家庭教育学級 人形劇（2月21日）



米山東幼稚園としての最後の家庭教育学級「ひまわり」の第4回学習会と閉級式を西幼稚園家庭教育学級と合同で中津山公民館にて人形劇の観劇を行いました。コロナ感染症対策として園児と先生方だけの参加。

てんたん人形劇団を招いて「たったか たったか たったかた」と「ごんぼさん にんじんさん だいこんさん」と題して2話を観劇。園児たちはどの話にも夢中になり、普段触れることのない人形劇を楽しんでいました。

令和4年度からは米山幼稚園として新しい家庭教育学級を開催していきます。今後も家庭教育学級の事業を皆さんに報告していきたいと思っております。

裏面もご覧ください 

吉田先人大学 第4回学習会並びに閉級式（3月10日）



今回の学習会は2部に分けて開催。第1部では、宮城県佐沼警察署生活安全課少年・生活安全捜査係長の河村宏治氏を講師に迎え「スマホの落とし穴」という題でご講演頂きました。実際にあった話や、スマホの画面を実際に操作しながらの説明に、皆さん「とてもわかりやすかった。」「スマホを持っていないからわからなかったけど、スマホって怖いんだね。」と今後のスマホ、ガラケーの使い方を見直すいい機会になったようです。皆さんも今後に備えて、使い方を見直してみたいでしょうか。

第2部では、株式会社マルシンの薄井愛氏を講師に迎え「椅子に座ったままでできる健康体操」を教えてくださいました。36名の学級生が「愛先生の体操は楽しく体を動かすことができる。」「とても体が楽になった。」とコロナ禍で自宅にいる時間が増え、ストレスが溜まったり、運動不足になってしまったりする中で、心も体もリフレッシュしたようです。ぜひ家でも継続し、健康な日々を過ごしましょう。

吉田女性サークル 第6回学習会並びに閉級式（3月16日）



シフォンの家ららの野家数夫氏を講師に迎え、シフォンケーキの作り方を教えてくださいました。最初に作り方と材料の説明をしていただき、「小豆、コーヒー、紅茶、黒ゴマ」の4種類から好きな味を選んで調理開始。皆さんメレンゲ作りに苦戦していましたが、頑張りのかいがありふっくらとしたシフォンケーキができました。

今回は、コロナ禍の為試食はせず全てお持ち帰りしましたが、「家に帰ってから食べてみるのが楽しみ。」「家でもまた作ってみたい。」と今回の学習会にとっても満足されているようでした。

館長の戯言（ざれごと）No. 7 「なじょ」（参考図書：方言に生きる古語）

3月16日深夜の大地震びっくりしました。被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます。地震の揺れの中で考えたこと「なじょすっぺ」。家のこと、公民館・善コミ・YOUYOU館、避難所のこと等々、何をどうすればと思いながら車に一直線で公民館に向かいました。

どのようなやどうしての意味で使われる方言「なじょ」は、なじょしてできた方言でしょうか。この言葉も古い都の言葉でした。平安時代には「なでふ（なじょう）」という形で盛んに使用されていて、例えば竹取物語でかぐや姫が「なでふ心地すれば」と物思いにふける場面に使われているそうで、語源は「なにといふ」で「なにてふ」「なんでふ」と変化して「なでふ」になり、各地に伝わりました。宮城県、岩手県、山形県置賜、福島県会津、新潟県などで広く使われている方言です。

さて、前回の「はっと」反響ありました。そこでもう一ネタ、平安末期の太政大臣藤原頼長は日記に小豆の汁で餛飩を食べたと記していて、当地で食べている「小豆はっと」は平安時代の宮廷料理だったようです。